

✦ ご挨拶



19 年ぶり日本人力士の横綱誕生！不断の努力で壁を破った稀勢の里閔。夢をつかんだ結果にも「先代はいつも『横綱は孤独だ』と言っていた。当時は理解に苦しむこともあったけど、その言葉を理解できるように努力していきたい」との弁。やりがいのある仕事は、苦勞も多いけれど「楽しい」。当院も今年で 28 年目、更なる挑戦に向けて頑張ります！

✦ あなたはどちら派？

「あなたは何のために歯科医院を訪れますか？」

痛みを取りたいから、詰め物や被せ物が取れたから、歯茎が腫れたから、歯が抜けたから・・・理由は様々でしょう。それでは「通院のきっかけとなった問題が無くなったら、その後は？」という問いには、どうお答えになりますか？

当院では、ご相談に来られる方に対して、初診時から治療は「致しません。」なぜなら現状の分析なくして、計画は立てられないからです。現状を分析するとは、【その結果に至るまでの過程を知る】ということです。

当院は「入れ歯」専門で診療を行っておりますから、多くの患者さんが程度の差こそあれ、ご自身の歯を喪失、また不適切な入れ歯でお困りになっています。色々な経緯を経て、複雑な問題を抱えてしまった難しい症例の患者さんになるほど、玉ねぎの皮をむくように、問題を一つずつはぎ取っていかねばなりません。

ですから、「この部分だけ何とかして欲しい」と患者さんが主張されて、表層の問題を解決したとしても、他の問題を先送りになっているだけで、「真の成果」は得られない。あくまでも応急処置にしかならないのです。

よく仕事上使われる「PDCAサイクル」という用語があります。ご存知とは思いますが、Plan（計画）Do（実行）Check（検証）Action（改善）の頭文字を取ったもので、「計画・実行・検証・改善」を繰り返しながら行動することです。

患者さんに合った適切な入れ歯を作る（複雑な問題を取り除こうとする）とき、多くは左記のPDCA 1 回のサイクルで終わることはありません。一つ問題を解決したら、少し改善した「咬み合わせ」や「顎の状態」になります。それに合わせて、次の問題の解決に当たるというように、よりレベルアップしたサイクルを回していかなければならないのです。

その意味においても、昨年導入したCT（コンピュータ断層撮影装置）は、当院に飛躍的な向上をもたらしました。咬み合わせの基礎となる「顎の関節」に対し、今までは平面的な画像でしか捉えられなかったのですが、細部まで立体的に診えるようになったのです。人生の縮図が、ここにあります。まさに【顎関節は語る】です。これによって得られた情報を診療に反映させ、新規作製の入れ歯だけでなく、メンテナンスも行いやすくなりました。

ここで、「あなたにとっての成果とは何か？ご自身が本当に望むものは何なのか？」ということを考えていただきたいのです。それは、ご自身の今後の生き方にも関わってくることです。

世界の多くの国で 65 歳以上が高齢者と定義されていますが、これには医学的・生物学的な根拠はありません。おりしも今年 1 月、日本老年学会は高齢者について再定義し、65～74 歳までを「准高齢者」、75 歳以上を「高齢者」とするよう提言をまとめました。

✦ 今月の言葉



変化への抵抗の底にあるものは、無知である。
未知への不安である。

しかし、変化は機会とみなすべきものである。
変化を機会として捉えたとき、初めて不安は消える。

（ピーター・ドラッカー著『マネジメント』より）